

HbA1c10%以上のコントロール不良インスリン依存型糖尿病患者の解析 研究協力者：三木裕子

要旨：小児期の血糖管理が成人後の糖尿病性合併症に大きな影響を与えることは周知の事実である。DCCTの結果報告以後、HbA1cを7%以下にするために小児科領域においてもインスリン強化療法が積極的に取り入れられるようになったが、HbA1c10%以上の患者はなかなか減少しない。15歳未満発症インスリン依存型糖尿病（IDDM）患者594名に占めるHbA1c10%以上の症例をHbA1c7%未満の症例と比較検討し、さらに血糖管理が改善しない理由について検討する。治療内容、患者の年齢、発症年齢、罹病期間には血糖コントロールの良否で明らかな差はなかった。しかし、HbA1c10%以上の患者は圧倒的に女性が多かった。その背景を明らかにするために心理面での患者の問題点に関するアンケート用紙を作成中であり、今後さらに原因解明のため調査を続ける予定である。

【研究目的】

思春期のIDDM患者では何年間も血糖管理が不良のまま経過する場合がある。しかし、将来の合併症を考えると少しでも早期に血糖管理を改善することが重要である。そのためにHbA1c10%以上の高値が持続する患者の原因を明らかにし、その対策について検討した。

【対象及び方法】

対象：小児インスリン治療研究会に登録されている15歳未満発症のIDDM患者である。1996年3月より1998年3月まで3カ月ごと年4回、HbA1c値を報告してもらい3回以上HbA1c値が登録されている594名を対象とした。

方法：平均HbA1c値10%以上と7%未満の2グループに分け、年齢、発症年齢、罹病期間、インスリン治療についての検討を行った。次にHbA1c値10%以上の患者の原因を探るために患者自身、患者の親、主治医の3者に対するアンケート用紙を作成した。

【結果】

	A群	B群
平均HbA1c値	10%以上	7%未満
総数（名）	65（女49、男16）	61（女31、男30）
平均年齢（歳）	15.1（8.5-21.9）	16.6（9.7-21.8）
平均発症年齢（歳）	8.2（0.5-14.7）	8.4（0.1-14.6）
平均罹病期間（年）	7.5（3.0-16.1）	8.4（3.2-17.7）
インスリン治療		
回数（96年3月）	4回-32名 3回-6名 2回-26名	4-36 3-8 2-17
（97年11月）	39 10 12	41 7 11
量（U/kg）	1.06	1.11

2群間に平均年齢、平均発症年齢、平均罹病期間、インスリン注射回数、インスリン量に差は認めなかった。コントロール不良群では女性が多かった。

【考察】

他の報告でも血糖コントロール不良患者は女性に多い。今回の我々の結果でも治療内容に関係なく、HbA1c 値 10%以上の者に女性が多く、摂食障害など食に関する問題が女性に多いことを考慮すると、心理面での解析も重要と思われた。今後、アンケート調査を実施し、さらにコントロール不良患者の解析を進める予定である。